

あいち病害虫情報 最新情報

平成28年 7月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方气象台7月14日発表の1か月予報によれば、前半は平年に比べ晴れの日が少なく、後半は平年同様に晴れの日が多い見込みです。また、気温は平年並か高いでしょう。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、天候を考慮して、的確な防除を心がけましょう。

いもち病

葉いもちの発生量は、7月上旬の巡回調査では平年並です。このため、早期栽培での穂いもちの発生量は平年並と予想します。ただし、今後曇雨天が続く場合や常発地等では、穂いもちの発生に注意してください。詳細は、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、7月上旬の巡回調査では水田内でやや少なく、畦畔雑草でやや多い状況です。また、県内各地に設置している予察灯における誘殺数はやや多い状況が続いており、今後の発生に注意が必要です。防除方法等詳細については、本日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

ウンカ類

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、県内全域で発生を確認しました。発生量は平年並の状況です。トビイロウンカは、予察灯では誘殺されていません。また、7月上旬の巡回調査では、ほ場での生息を認めませんでした。詳細は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は一部の地域で多い状況です。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや多い状況です。特に豊橋市、豊川市では、5月下旬から6月以降、平年よりかなり多く推移しています。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

果樹の病害

モモせん孔細菌病は風を伴う降雨により発生量が増加します。収穫予定日まで余裕がある発生ほ場では、収穫前日数に注意して防除しましょう。

モモ灰星病の発病果は伝染源になりますので、見つけたらほ場から持ち出し適切に処理するとともに、防除しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

ブドウべと病は、降雨により発生量が増加します。早期発見に努め、必要に応じて防除

しましょう。

収穫時期に近い作物、品種があります。農薬散布に当たっては、当該ほ場の収穫予定日のみならず、周辺のほ場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬の飛散に十分注意して下さい。

ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、一部やや多い地域があります。誘殺ピーク時期は、おおむね平年並ですが、やや早い地点もあります。7月以降は、本虫がナシ果実に食入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になるので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に、適期防除を心がけましょう。また、交信かく乱剤（コンフューザーNなど）を設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合は、収穫期間中に効果が低減し、被害が出る可能性があります。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

チャノキイロアザミウマ

黄色粘着板による成虫誘殺数はやや多い状況です。チャノキイロアザミウマの防除適期である第4世代の成虫発生ピーク予測日は、名古屋7月18日、大府7月20日、愛西、蒲郡、伊良湖7月23日、南知多、豊田、豊橋7月24日、岡崎7月25日、新城7月27日で前年より2日から6日早くなると予測します。発生ピーク予測日を参考に薬剤防除を実施しましょう。

果樹カメムシ類

フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、ヒノキ林に近い新城市、幸田町で7月上旬以降急増しており、現在、チャバネアオカメムシはヒノキ球果などを餌として生育していると思われます。そのため、現在は果樹園への飛来は少ない状況ですが、ヒノキ球果量がやや少ない～中程度であるため、本虫がヒノキ球果を食べ尽くし、餌を求めて果樹園へ飛来する恐れがあります。今後も果樹園への飛来状況に注意し適期に防除しましょう。なお、フェロモントラップにおける誘殺状況など詳細については本日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参照してください。

トマト苗へのタバココナジラミの寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が重要です。タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

アブラナ科野菜のコナガ

コナガは、キャベツで5月から6月に多発しているほ場が多く見られました。また、フェロモントラップにおける誘殺数の多い地域があります。今秋作の育苗においては注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820